

平成 21 年 4 月 24 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520422

研究課題名 (和文) 項目応答理論と構造方程式モデリングを用いた英語教育効果の検証

研究課題名 (英文) Language Assessment and Program Evaluation Using Item Response Theory and Structure Equation Modeling

研究代表者

斉田 智里 (SAIDA CHISATO)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号：50400594

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育、教育評価・測定、項目応答理論、言語テスト、学習指導要領

1. 研究計画の概要

(1) 高校入学時の英語力について、すでに明らかにした前学習指導要領下における経年変化のデータに、現行学習指導要領施行下のデータを継続させ、学習指導要領改訂前後での変化を明らかにする。

(2) 大学入学時の英語力の経年変化を分野別 (リスニング、リーディング、文法、語彙) に示す。英語力の経年変化に影響を及ぼす中等英語教育の諸要因 (学習指導要領、指導者、学習者等) を検討する。

(3) 大学及び高校入学後の各学習者の英語力の伸び (リスニング、リーディング、文法、語彙) を共通尺度上で示す。テストとあわせて質問紙調査を実施し、英語力の伸びに影響を及ぼす要因を検討する。

(4) 英語力評価に関するフィードバックシステムを開発する。

研究計画遂行のために、項目応答理論及び構造方程式モデリングの手法を活用する。

2. 研究の進捗状況

(1) 高校生の英語学力テストの等化を行った。1995-2008 年度までの結果が共通尺度上で比較可能となった。現行学習指導要領施行以降の高校入学時の英語力は、前学習指導要領下よりもさらに低下傾向が著しいことが実証された。論文作成中である。

(2) 大学生の英語学力テストの等化を行った。2005-2008 年度までの結果が共通尺度上で比較可能となった。大学入学時の語彙・文法力、リーディング力はやや低下傾向にあるが、リスニング力は徐々に向上していることがわかった。研究発表を行った。大学生の英語学力テスト実施時に、質問紙調査を実施した。

(3) 高等学校及び大学入学後の英語力の伸びを共通尺度上で示した。同時に質問紙調査を実施した (2005 以降)。データ分析中である。

(4) 語彙サイズテストを計画通り実施した。語彙テストに関しては、項目と能力値に着目をした研究発表をそれぞれ行った。項目では、語彙の品詞と困難度等との関係を調べた。能力値では、簡易語彙サイズ推定を行うために、能力推定値と語彙サイズとの対応表を作成した。語彙項目プールから学生の熟達度に応じた難易度の語彙テストを作成・実施し、語彙力の伸びと語彙サイズをフィードバックした。論文作成中である。

(5) 全学授業評価調査データを用いて、英語教育カリキュラム変更前と変更後の教育効果の比較検証を行った。独自の授業評価調査により、カリキュラム変更後の教育改善効果と課題を明らかにした。論文発表した。

(6) 各大学の全学英語教育で活用されている市販の英語学力テスト (TOEIC や TOEFL など) に着目し現地調査を行い、テストの活用目的、方法、実態、課題等について明らかにした。論文印刷中である。

(7) フィードバックシステム構築は、学習管理ソフトの全学導入により実現した。効果的な活用方法を検討中である。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

計画した英語テスト・質問紙調査は全て実施済みである。データ分析についても 6 割程度が終了し、2008 年度までに学会発表を 5 件程度、学会シンポジウムの話題提供も行った。そのうち 3 件が査読論文として出版 (印刷中も含む) された。

4. 今後の研究の推進方策

最後の年度は残るデータ分析を進め、学会発表・論文文化及び報告書作成に集中する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 齊田智里、小林邦彦、野口裕之、外部試験を活用した大学英語カリキュラム改革－大学入試センター試験、TOEIC、TOEFLと茨城大学共通テストとの関係－、日本テスト学会誌、(印刷中)、2009、査読有
- ② 齊田智里、大学英語教育カリキュラム改革による授業評価と成績評価の改善報告－全学授業評価調査データ分析による改善効果の検証－、ARELE(全国英語教育学会誌)、20、271-280、2009、査読有
- ③ 齊田智里、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)による日本人大学生英語力診断の試み－英語教育達成目標へのCEFR適用可能性の一検討－、JACET Journal (大学英語教育学会誌)、47、127-140、2008、査読有

[学会発表] (計6件)

- ① 齊田智里、「DIALANGによる日本人大学1年生英語力のCEFRレベル」第45回JACET(大学英語教育学会)全国大会要綱、2006/09、関西外国語大学
- ② 齊田智里、「学生による授業評価と英語の成績との関係－英語教育カリキュラム改善の視点から－」第33回全国英語教育学会大分研究大会発表予稿集Ⅱ、163-164、第33回全国英語教育学会大分研究大会、2007/08/05、大分大学
- ③ 齊田智里、「品詞別に見た語彙の頻度順と困難度との関係」第47回大学英語教育学会全国大会要綱、184-185、2008/09/12、早稲田大学
- ④ 齊田智里、「語彙サイズテストの開発と大学英語教育プログラムの教育効果検証の試み－項目応答理論の大学英語教育への活用－」日本言語テスト学会(JLTA)第12回全国大会(2008年度)、2008/09/14、常磐大学
- ⑤ 齊田智里、「Cambridge Interchange Placement Testsの難易度比較」日本教育心理学会第50回総会、2008/10/12、東京学芸大学
- ⑥ 齊田智里、「学力を比較可能にできる項目応答理論(IRT)」、日本教育心理学会第50回総会自主シンポジウム「教育心理学研究の可能性を拓くツールとしての統計解析」、2008/10/13、東京学芸大学